



アクティブ バリュースター オープン

愛称: **アクシア**

追加型投信／国内／株式

作成基準日: 2025年12月30日

※本資料の百分率は、原則として表示桁数未満を四捨五入していますので、合計の数値は必ずしも一致しません。

ファンドの目的・特色

《ファンドの目的》

信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

《ファンドの特色》

1. アクティブバリュースターファンドを通じて、実質的にわが国の株式に投資します。
2. 株式の投資にあたっては、バリュエーション指標等の尺度により銘柄を選定します。
3. 株式の実質的な組入比率は高位に保つことを基本方針とします。
4. 東証株価指数(TOPIX)*をベンチマークとし、中長期的にこれを上回る投資成果を目指します。

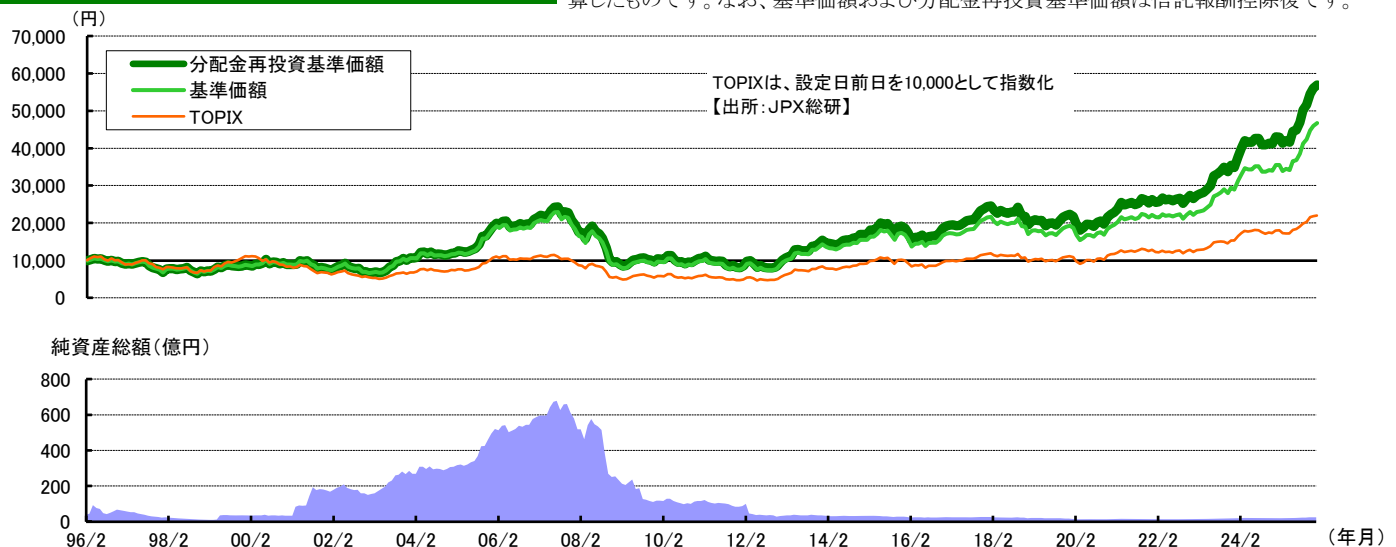
*東証株価指数(TOPIX)とは、株式会社JPX総研が算出する株価指数で、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。

東証株価指数(TOPIX)の指数値及び東証株価指数(TOPIX)に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

※資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

基準価額と純資産総額の推移 (設定来: 月次)

分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。なお、基準価額および分配金再投資基準価額は信託報酬控除後です。



商品概要

設定日	1996年2月29日
信託期間	無期限
決算日	2月27日 (休業日の場合は翌営業日)
信託報酬率	年 1.133% (税抜 1.03%)
基準価額	46,762円
純資産総額	2,387百万円
株式組入比率※	98.4%

※ベビーファンドの実質組入比率

期間別騰落率

	当ファンド	TOPIX	差異
過去1ヵ月	1.6%	0.9%	0.7%
過去3ヵ月	10.2%	8.6%	1.6%
過去6ヵ月	26.9%	19.5%	7.5%
過去1年間	32.2%	22.4%	9.8%
過去3年間	114.5%	80.2%	34.3%
設定来	469.4%	120.3%	349.1%

(注)収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

分配実績 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
第1期～第25期累計	2,650円
第26期 (2022/2/28)	200円
第27期 (2023/2/27)	200円
第28期 (2024/2/27)	200円
第29期 (2025/2/27)	200円
設定来分配金合計	3,450円

※運用実績および分配実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

※本資料をご覧くださいにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は



電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)
インターネットホームページ <https://www.tdasasset.co.jp/>

組入上位銘柄

No.	コード*	銘柄名	業種名	組入比率 (注1)	TOPIX ウェイト (注2)	アクティブ ウェイト (注3)
1	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.8%	3.2%	1.6%
2	7203	トヨタ自動車	輸送用機器	4.4%	3.7%	0.7%
3	8316	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.0%	2.3%	1.7%
4	6501	日立製作所	電気機器	2.9%	2.6%	0.3%
5	8058	三菱商事	卸売業	2.4%	1.6%	0.9%
6	8001	伊藤忠商事	卸売業	2.4%	1.5%	1.0%
7	6758	ソニーグループ	電気機器	2.3%	2.9%	-0.5%
8	9432	NTT	情報・通信業	2.3%	0.9%	1.4%
9	9020	東日本旅客鉄道	陸運業	2.2%	0.5%	1.7%
10	6503	三菱電機	電気機器	2.0%	1.1%	1.0%
その他 61銘柄				68.7%		

組入上位業種

No.	業種名	組入比率 (注1)	TOPIX ウェイト (注2)	アクティブ ウェイト (注3)
1	電気機器	18.1%	18.4%	-0.2%
2	銀行業	10.0%	10.1%	-0.1%
3	輸送用機器	7.8%	7.0%	0.8%
4	卸売業	7.5%	7.7%	-0.3%
5	情報・通信業	7.4%	7.2%	0.2%
6	化学	6.3%	4.5%	1.8%
7	医薬品	5.2%	3.7%	1.5%
8	機械	4.7%	5.9%	-1.2%
9	保険業	3.1%	3.2%	-0.1%
10	陸運業	3.0%	2.2%	0.7%
その他		25.3%		

(注1) ベビーフアンドの実質組入比率 (注2) TOPIXの指数全体に占める各銘柄、各業種の構成比率 (注3) TOPIXウェイトとの差異

※本資料の百分率は、原則として表示桁数未満を四捨五入していますので、合計の数値は必ずしも一致しません。

ファンドマネージャーのコメント

<株式市場概況>

12月の株式市場(TOPIX)は、米国株式の堅調さに支えられつつ日米の金融政策イベントや半導体・AI(人工知能)関連のニュースに一喜一憂する展開となり、上昇して終えました。上旬は、日銀の利上げ観測を背景とした長期金利の上昇や利益確定売りが重荷となり、軟調な滑り出しとなりました。一方で、米国では利下げ期待が高まり、米国株式の底堅さが日本株の下支えとなりました。中旬は、FOMC(米連邦公開市場委員会)で0.25%の利下げが実施され、米景気への安心感から日米株は上昇し、TOPIXは一時、終値ベースの最高値を更新しました。その後、AIデータセンター投資を巡る懸念等を受けAI関連株に波乱が生じる場面もありましたが、日銀の利上げがハト派的との見方や円安進行が相場を支えました。下旬は、米国の対中半導体輸出に関する報道を受けて半導体関連株が持ち直し、年末にかけて市場参加者が減少する中でもTOPIXは高値圏を維持しました。その結果、12月末のTOPIXは前月末比+0.9%の3,408.97ポイントとなりました。業種別株価指数の騰落率上位は①保険業(+6.7%)、②証券・商品先物取引業(+6.3%)、③石油・石炭製品(+5.8%)など、下位業種は①その他製品(▲13.3%)、②電気・ガス業(▲4.7%)、③鉱業(▲4.0%)などとなりました。

<ファンド概況>

当ファンドの12月の基準価額騰落率は+1.6%となり、TOPIXの騰落率を約0.7ポイント上回る結果となりました。小売業やその他製品、精密機器のアンダーウェイトなどにより、業種配分効果はややプラスとなりました。また、堅調な業績動向が好感された日鉄ソリューションズや業績底打ち期待の高まった安川電機の株価上昇に加え、半導体価格の上昇が収益を圧迫するとの懸念から株価が下落した任天堂のアンダーウェイトなどにより、銘柄選択効果もプラスとなりました。

投資行動としては、業績見通しへの安心感が高まったと判断した輸送用機器並びに構造改革効果が期待できる電気機器の銘柄等を新規に組入れました。一方、値上げの一服により業績改善ペースが鈍化する懸念が生じた食料品の銘柄等について全売却を実施しました。

<今後の運用方針>

国内株式市場は、日米の金融政策イベントが無難に通過し、底堅く推移しています。今後も金融政策スタンスの見極めが重要ですが、加えて、次期FRB(米連邦準備制度理事会)議長人事にも注視が必要です。国内では通常国会の召集を控え、高市首相の掲げる目玉政策への注目が再度高まる可能性があります。一方で米国においては、個人消費や雇用環境の不透明感が残るほか、ベネズエラ情勢を巡って地政学リスクの高まりも懸念されます。以上を踏まえ、今後も短期業績の善し悪しにとらわれず、中長期的な視点を意識しリストラや事業の構造転換、新事業・新商材、株主還元強化など個別要因によって業績改善が期待できる企業に積極投資していく方針です。

当ファンドでは引続き株式市場の”期待値の低い銘柄”の中から、業績モメンタム好転の可能性が高い銘柄の新規組入れ、ウェイト引上げ、業績やバリュエーションの観点から投資魅力の低下した銘柄の売却やウェイト引下げを行い、ファンドのパフォーマンス向上に努めてまいります。

※本資料をご覧ください。あたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は



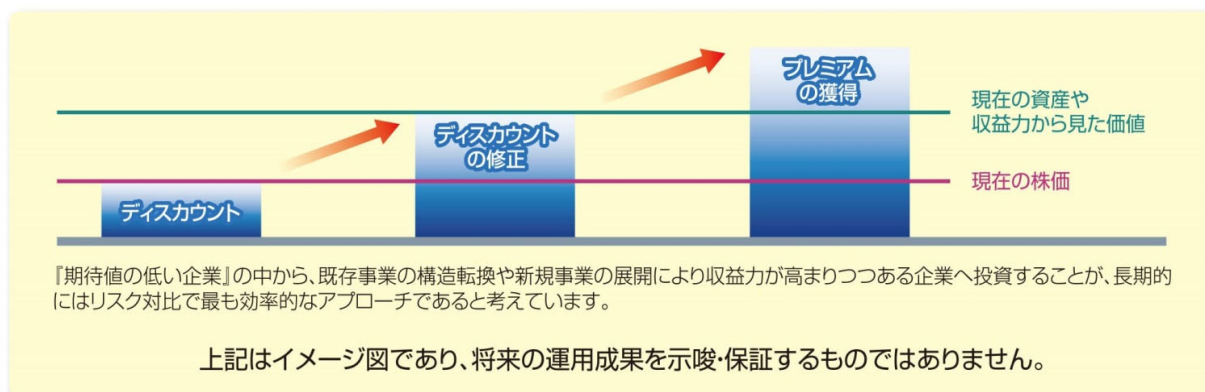
T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)

インターネットホームページ <https://www.tdasst.co.jp/>

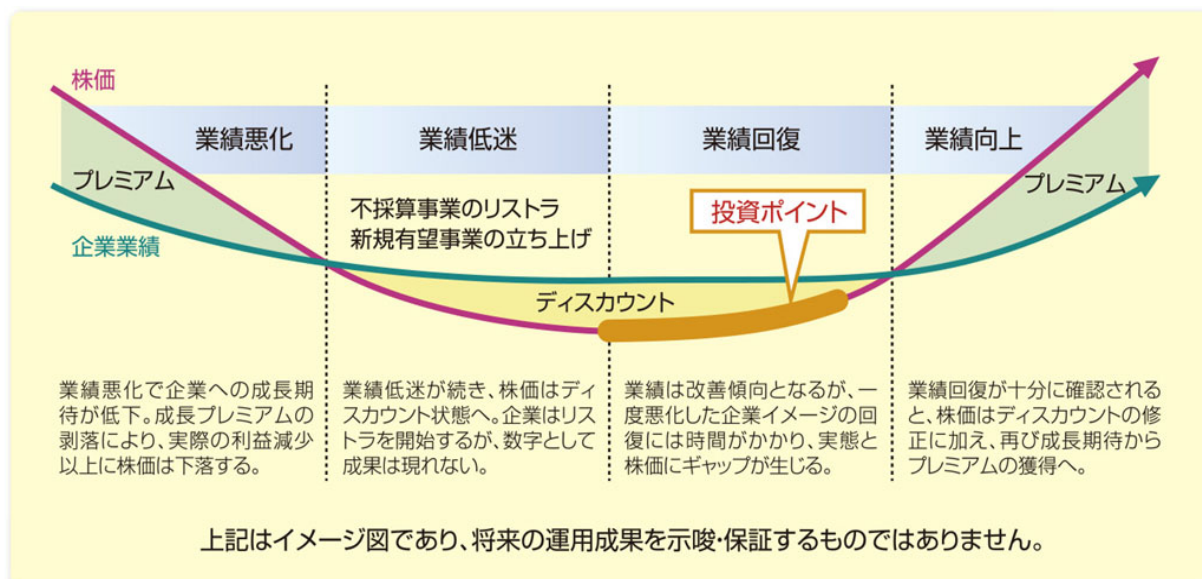
● 運用哲学 ～株式市場での「期待値の低い企業」に投資します～

- 株式市場では、現在の企業価値はもとより将来の可能性をプレミアムとして評価し株価が形成されています。過去、低収益・低成長であった企業に対する期待値は低く、実態よりディスカウントされた株価で取引される傾向があります。
- 企業の体質変化や成長スピードの加速を的確に評価することで、現実とイメージのギャップ解消(＝ディスカウントの修正)、更には良いイメージへの転換による大幅な株価上昇(＝プレミアムの獲得)の可能性を捉えます。
- すでに株価がディスカウントになっている企業への投資は、失望による株価下落リスクが限定的と考えられます。



● 運用手法の特色 ～ギャップの発生を探すアプローチ～

市場参加者の多くは、企業業績をベースに投資判断を行うと考えられます。しかし、業績の変化に対して市場が過剰反応することにより、株価は実態価値に対して、プレミアム⇄ディスカウントとなる状態が繰り返される傾向があります。



※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

 T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)
インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

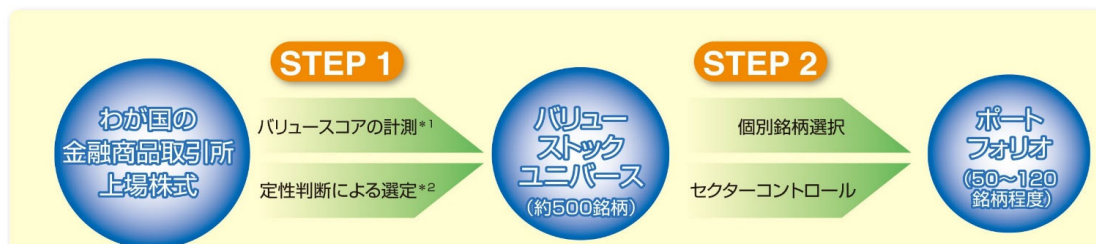
● 運用プロセス

STEP 1

①ストック(資産)、②フロー(収益)、③投資リスクの3つの側面から客観的に割安度を計測した当社独自の「バリュースコア」を元にバリュースtockユニバースを作成します。

STEP 2

期待値の低い企業に着目した個別銘柄選択と、リスクコントロールの観点から組入銘柄を判断するセクターコントロールの2つのアプローチでポートフォリオを構築します。



*1 TOPIX採用銘柄(金融セクター以外)を対象に行います。

*2 TOPIX採用銘柄(金融セクター)およびTOPIX採用銘柄以外の上場銘柄を対象に行います。

バリュースコアとは

- 投資判断においてビルトインされている企業に対するイメージを明確(数値化)にすることにより、バリューアプローチの効率性を高めるツールです。
- 割安／割高の判断基準として一般的に使われている株価指標(PER、PBR、配当利回り等)は、ある一時点での財務状態をベースとしており、株価形成において最も重要な今後の利益成長の可能性が考慮されていません。
- 今後の可能性を加味して実質的な基準に調整し、それを数値(スコア)として客観的に表します。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。

したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。

● ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

株価変動リスク

株式の価格は、発行企業の業績や財務状況、市場・経済の状況等を反映して変動します。特に企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株価が大きく下落し、基準価額が値下がりする要因となります。

※ 基準価額の変動要因(リスク)は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

◆ 分配金に関する留意点

- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ◆ 大量の解約・換金申込を受け付け短期間で解約資金を準備する必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、投資する有価証券の価格が下落し、基準価額が変動する要因となります。また、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

※ 本資料をご覧くださいにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は



T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)
インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。 ただし、販売会社により異なる場合があります。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うために大口の換金申込には制限があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入、換金の申込の受付を中止することおよびすでに受付けた申込の受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(1996年2月29日設定)
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めたととき、その他やむを得ない事情が発生した場合等には、繰上償還となる場合があります。
決算日	2月27日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 販売会社との契約によっては、税引後無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	5,000億円
公 告	委託会社が投資者に対してする公告は、原則として電子公告により行い、委託会社のホームページ(https://www.tdasst.co.jp/)に掲載します。
運用報告書	決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
課 税 関 係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は、税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。ファンドについては、NISAの適用対象ではありません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用が可能です。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 2.75%(税抜2.5%)を上限 として販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。 購入時手数料は、ファンドの商品説明、販売にかかる事務費用等の対価です。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	毎日、ファンドの純資産総額に 年1.133%(税抜1.03%) の率を乗じて得た額とします。 ファンドの運用管理費用(信託報酬)は日々費用計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または償還時にファンドから支払われます。 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 [運用管理費用(信託報酬)の対価の内容] 委託会社:委託した資金の運用等の対価 販売会社:購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社:運用財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他の費用・手数料	・信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、信託財産中から支弁します。 ・証券取引に伴う手数料、組入資産の保管に要する費用等は、信託財産中から支弁します。 これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。

上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は



T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)
インターネットホームページ <https://www.tdasst.co.jp/>

ファンドの関係法人の概況

【委託会社】 ◇ 信託財産の運用指図等を行います。

T&Dアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第357号

加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

【受託会社】 ◇ 信託財産の管理・保管業務を行います。

三菱UFJ信託銀行株式会社

(再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

【販売会社】 ◇ 受益権の募集・販売の取扱、換金(解約)事務、換金代金・収益分配金・償還金の支払等を行います。

※ 次頁にファンドの販売会社の名称等を記載しています。

ご留意いただきたい事項

◆ 本資料はT&Dアセットマネジメントが作成した販売用資料です。本資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に掲載されているグラフ、パフォーマンス等の内容は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。本資料に掲載されている意見・見通しは表記時点での当社の判断を反映したものであり、将来予告なく変更されることがあります。

◆ 投資信託はリスクを含む商品であり、株式および公社債等値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

◆ 投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

◆ 投資信託のご購入時は、各販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

■ 設定・運用は



T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)
インターネットホームページ <https://www.tdasasset.co.jp/>

販売会社の名称等

2026年1月5日現在

販売会社		登録番号	日本 証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社足利銀行	登録金融 機関	関東財務局長 (登金)第43号	○		○	
SMBC日興証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第44号	○		○	○
東海東京証券株式会社	金融商品 取引業者	東海財務局長 (金商)第140号	○	○	○	○
株式会社徳島大正銀行	登録金融 機関	四国財務局長 (登金)第10号	○			
野村證券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第142号	○	○	○	○
株式会社広島銀行	登録金融 機関	中国財務局長 (登金)第5号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行	登録金融 機関	関東財務局長 (登金)第633号	○			
委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○	○
株式会社SBI新生銀行	登録金融 機関	関東財務局長 (登金)第10号	○		○	
委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第61号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第195号	○	○	○	○

※加入協会に○印を記載しています。

※東海東京証券株式会社は、同社にSMA取引口座を開設した場合に限ります。

※株式会社足利銀行、SMBC日興証券株式会社、株式会社徳島大正銀行、野村證券株式会社、株式会社広島銀行および三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社は、新規取引のお申込は受付けておりません。

※本資料をご覧くださいにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は


 電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)
 インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>